

視覚障がい者支援センター(仮称)の設置を求める請願書

令和3年 月 日

島根県知事 殿

【請願の趣旨】

近年、医療の進展により眼疾患の治療技術が進みつつありますが、生まれつき視覚に障がいを持つ人は依然として存在し、途中で、また高齢化で視覚障がいとなる人も減ることはありません。

こうした視覚障がい者への日常生活や就労などに関わる相談対応、日常生活や就労に必要な技術を身につける生活訓練を担うセンターが切実に求められています。

島根県におかれましては視覚障がい者を包括的に支援する基幹センターの設置及び相談・生活訓練等に必要な事業費を確保されますようお願いいたします。

【請願事項】

視覚障がい者からの相談窓口となり、日常生活や就労に必要な訓練を行う

- 1 視覚障がい生活訓練等指導者や支援コーディネーターが配置された視覚障がい者支援センター（仮称）の設置
- 2 支援センターの運営及び事業実施に必要な事業費の確保

| 氏名 | 住所 |
|----|----|
| | 県 |
| | 県 |
| | 県 |
| | 県 |
| | 県 |

〈取り扱い団体〉 島根県眼科医会 公益社団法人島根県視覚障害者福祉協会
島根ビジョンネットワーク

〈お問い合わせ先〉〒 690-0884 島根県松江市南田町 141 番地 10
電話(0852)24-8169 島根県視覚障害者福祉協会

皆さんの周りにはこんなに多く、目の不自由な方がいます。

◆視覚障がい者 島根県内の視覚障がい者は 推定 約 8,700人
(2009年日本眼科医会発表「読書をはじめ日常生活に支障があるか支障を感じている人約164万人」を基に、島根県民人口から推定)

◆身体障害者手帳保有者(視覚障がい) 2,294名
(令和2年3月末現在、島根県立心と体の相談センター資料から)

野田 佐知子さん(松江市・眼科医) 医療界からの声

島根県でもようやくロービジョンケアが広がりつつあります。しかし現状はどうでしょうか。歩行訓練を待機中の方が何人もいらっしゃる、中には1年以上も待機の方も、といった具合です。「えっ!」「どうしてそんなに時間がかかるの?」「なぜ?」理由は「お金がない、人が足りない」ということです。歩行訓練などもライトハウスライブラリー業務の中で少ない予算とわずかな職員で行っています。「何とかしなくては!」

皆様のご理解の上、行政に働きかけて必要な事業費を確保できますようにご協力をお願いいたします。

佐藤 昌史さん(雲南市) 当事者からの声

平成12年の秋、新聞の文字が見えなくなり、車の運転ができなくなりました。会社を休み、入院治療しても視力は戻らず、パニック状態でした。半年後、社会復帰をめざし、松江市のライトハウスライブラリーで半年間、パソコン、点字等の生活訓練を受け、多いときは週3回通いましたが、通うとなると、即、歩行訓練が必要でした。その後、職業的な訓練を受けるため、大阪の視覚障害者リハビリセンターに半年間入所しました。たくさんの方に支えられ、1年10か月後に会社に戻ることができました。

私は視覚障害となりましたが、絶望しか考えられなかった心が相談を通じて支えを得られ、集中して様々な訓練を受けられたことで社会復帰がスムーズにできました。

ところが、当時の私は稀有な幸運というほかになく、現在の県内の体制は生活訓練、社会復帰への訓練を受けたくても受けられない状態です。

私のように社会復帰に向けては障害を負ってあまり間をおかないうちに訓練を受けることが必要です。そういう体制を早急につくっていただくことを切に望みます。

生活訓練とは…

視覚障がい者が日常の生活を安心して、安全に過ごせるよう日常生活動作を身につけるための訓練を言います。

具体的には、白杖を利用した歩行訓練、点字触読訓練、情報機器端末等の操作訓練などがあります。この訓練を行う者は、一定水準の指導技術や専門知識などを持つ「視覚障害者生活訓練等指導者」資格が必要で、県内でそれを業として行っているのはライトハウスライブラリー(松江市)に2名と西部視聴覚障害者情報センター(浜田市)に1名のわずか3名です。

